

自然豊かな和紙の里

# 日置地区まちづくり計画

みんなで  
やら〜で!!

人にやさしく住みよい日置づくり



昭和49年10月指定  
鳥取県無形民俗文化財  
はねそ踊り

2010年12月制定

日置地区まちづくり協議会

## (1) はじめに

日置地区は、鳥取市の西端に位置し、日置川に沿って東西に短く南北に長く、山に囲まれた典型的な日本型の山間地です。

山々は、豊富な水と、春には山菜、鳥のさえずり、夏は木々の緑、秋には紅葉、栃の実など豊かな自然に恵まれた日置、日置川の源流域には、子どもたちにより「ミニ屋久島」と名づけられた場所もあります。

産業は、1300年近い伝統を持つ、因州和紙産業などの発展を基軸に、支えられてきました。

現在では、伝統を守りながら新しい技術により研究された新製品も開発されています。

自然豊かな日置地区も、急速な少子高齢化による過疎化の流れは進み、平成12年度には日置保育所が統合による閉所、平成19年度には日置小学校が、統合により閉校しました。バス通学になった現在、子どもたちの声が地域から聞こえなくなり姿も見なくなり、寂しい限りです。

子どもたちには恵まれた豊かな自然の中で思いっきり遊び、学び、人と人とのつながりを深め、誰にでも優しく接することで、ふるさと日置を愛し誇りに思い大切に守ってほしいものです。

日置地区も、近い将来限界集落と呼ばれることが現実味を帯びてきており、その対策が急務となっています。このようなときこそ、地域住民の団結力が必要です。

### ～人に優しく住みよい 日置づくり のために～

鳥取市自治基本条例が制定され協働のまちづくりが進められていく中、平成20年11月に『日置地区まちづくり協議会』が設立されました。

この協議会は、住民と行政で適切な協力関係を築き、課題解決に向けて取り組むため、ここに日置地区のまちづくり計画を作成しました。

※ 児童数の推移については参考資料①に記載しています。

## 2) 地区の現状認識と課題

私達の住む日置地区(旧日置村)は、昭和30年青谷町に編入合併しました。合併当時は人口2,594人、510世帯でしたが、平成22年10月現在では、人口1,222人、407世帯に減少しました。人口にいたっては半減し、高齢化は進み、平成17年の高齢化率は33.1%、平成22年の高齢化率は35.1%です。

生活防災の面から見ても昼間人口は激減し、防災体制に不安を抱える住民の方も多と思います。

平成20年9月『日置地区まちづくり協議会』設立準備委員会が行った住民アンケートでは

\* 「日置地区に愛着を感じているか」の問いに、

愛着を感じている	73%
どちらかと言えば感じている	19%
感じていない	7%

\* 「今後も日置地区に住みたいですか」の問いに、

住み続けたい	66%
どちらとも言えない	20%
住みたくない	12%

\* 住みたくない、住めない主な理由として買い物が不便、交通の便が悪い、医療機関がないなどがありました。確かに以前は各集落に食料品店があり、医院も地区にあり日常の買い物、病気の時にはすぐ駆けつけていました。

\* 「地区として今後どのようなことに力を入れるべきですか」の問いに、

防災面では

災害時の情報連絡体制の充実	49%
防災施設の充実整備	35%

※ 人口、世帯数の推移については参考資料②に載せています。

自警団の充実	31%
防火防災意識の啓発活動	27%
消火避難訓練の充実	23%

環境美化面では

地域の清掃活動	40%
河川整備、水質浄化	35%
不法投棄などの取り締まり	36%
ごみの減量リサイクル	29%

\* 「非常時誰を頼りにしますか」の問いに、

家族	71%
近所の人	29%
親戚	20%
友人	11%

\* 「将来の日置についてどうすべきと思いますか」の問いに、

バスなどの利便性の向上を

独居者・高齢者の支援

旧小学校施設の整備

若者の定住促進

河川・道路の整備

生涯学習の充実

自然環境の保全

自然災害への対応

子育て環境の充実

様々な意見、提案が沢山ありました。

これらの実現を目指すために地域でできるもの、行政と協働で行うものなど、それぞれに考え知恵を出し合い、より良い日置、若者が愛し定住できる日置づくりに、地域全体で取り組みをすることが大切です。

### (3) まちづくり計画

#### 1) まちづくりの目的

住民アンケートにより出てきた問題課題を中心に、日置地区を、人に優しく、豊かで日置地区民が住みやすい地域にするため、地区全体(日置地区民)と行政が連携・協力をはかりながら、実現を目指します。

#### 2) まちづくりの目標

住民アンケートを集約した結果をもとに、目指す**日置づくり**に向けて3部会を設置し、計画を立て実行に移します。

#### ○環境部会（環境整備）

和紙の里日置の豊かな自然を守り、育む事により地区住民全体の住環境を、少しでも快適なものにするための事業を計画実行します。

ア 散歩道の整備

イ 河床整備

ウ 日置川のごみ拾い、雑木の伐採

エ 日置を美しくする会が植樹した桜の木の下草刈、県道沿いの缶拾い

オ 旧日置小学校施設並びに周辺環境整備

カ 不法投棄物の監視

キ 県道沿線の美化（休耕田の有効活用）

#### ○防災部会（防犯・防災）

地区全体で災害時に組織的な活動ができるように、「自助」「共助」のもと自主防災体制の整備事業を計画実行します。

ア 地区全体の防災訓練

イ 自警団が留守になる昼間の緊急体制づくり

ウ 各団体の連携による防犯事業の推進

エ 各集落における高齢独居世帯・高齢世帯・災害時要援護者世帯の現状確認

オ 安全講習会（主に子ども、高齢者を対象に）

カ 降雪時の除雪の体制、安否の確認

○福祉・育成部会（福祉・健康・生涯学習・子育て支援）

若者の活性・定住化をはかるとともに、希薄になりがちな人とのつながりを育み、子どもやお年寄りが安心、安全、生きがいをもって、元気に楽しく生活できるよう、人にやさしい地域づくりに向けた事業を計画し実行します。

ア 地区公民館の一層の活用促進（1人でも気軽に立ち寄れる場所づくり）

イ 図書室の充実

ウ 高齢者の知識、技術などを若い世代に引き継ぐ取り組み

エ 豊かな自然を生かした行事、教室など、子どもが健やかに育つ環境づくりの充実

オ 和紙工房、日置グラウンド、日置体育館を利用した健康促進

カ 各団体の連携による食事生活面、健康づくりの推進

キ 地産地消の推進（じげの味の伝承）

ク 高齢者向け、幼児向け、壮年向け料理教室の開催

ケ あいさつ運動など人と人とのつながり、ふれあいを深める取り組み



世代間交流グラウンドゴルフ大会の様子



納涼祭の様子



### 3) 実施されている具体的な取り組みについて

#### ① きらり☆ひおき展 ♥ ふれあいコンサート

地域の皆さんの、作品等を展示発表する。

公民館活動でなくても趣味等で、素晴らしい作品を作っておられると思います。

それを一堂に展示して鑑賞する。そこで生まれる会話・交流の場作りを目指しています。

ふれあいコンサートは、いい音楽を聴きながら、皆さんの交流の場になればと企画しています。



#### ② 青空市

地域で採れた野菜、果物、加工品、漬け物、佃煮などが出品され、多くの人で賑います。

来年の青空市には、「和紙の里ふれあいそばづくり実行委員会」のメンバーにより栽培された、日置産のそば粉で美味しいそばを味わっていただけます。そこから広がる交流の輪がとても楽しみです。



### ③ みそづくり ♥ 豆腐づくり

安心安全の手づくりの食べ物。昔は、ほとんどの物を、家族総出で作っていました。おじいさんから教えられること、おばあさんから受け継ぐ我が家の味、弾む会話の中で受け継がれてきました。今後は、地域の方と一緒に楽しく力を合わせ作って行きます。



### ④ パンづくり(福祉・育成部会)

育児サークル「ちゅーりっぷ」(子育て真最中の若いお母さんの集まり) 日頃は子育てで忙しく、パンづくりなどできませんが、調理室のとなりに保育場所を確保することにより安心して調理にかかれました。このような支援の体制を広げ、手づくりのおやつ等で会話を弾ませたいと思います。



### ⑤ 県道沿い缶拾い・草刈り(環境部会)

まちづくり協議会の環境部会と公民館社会部の呼びかけで、県道沿いの缶・ごみ拾いと以前に植樹した各集落の桜の木の下での草刈りを行います。年々ポイ捨ての量は減少していますが、逆に増えているところもあり、継続して活動を続けていく必要があります。





## ⑥ そばづくり（環境部会）

日置を語る会の中で、地域の活性化のため、又、県道沿いの耕作放棄地の活用と美化のためにそばづくりを始めたとの提案があり、「和紙の里ふれあいそばづくり実行委員会」が立ちあがりました。まちづくり協議会環境部会の取り組み事業として活動を開始しました。

8月に種蒔きをしたそばは10月の下旬には収穫、9月に種蒔きしたそばは11月の収穫となります。日置で育てたそばで地域の活性化を進めるため、そば打ち教室を開催しました。今後も家庭で、地域で、いつでもそばを打って食べ、家庭のだんらん、近所のコミュニケーションに役立ててください。地区外に向けても交流の輪を広げていきたいと思っています。



## ⑦ 防災訓練(防災部会)

第5分団、各集落自警団、民生委員、地域の皆さんのご協力のもと、年1回の防災訓練を行います。いつ何時災害が起こるかも知れない、近年予想外の自然災害が起きています。「想定外です」とよく言われますが、どんなときでも「自助」自分の身はまず自分で、「共助」ご近所で助け合って災害から身を守る、まずはこの2点が必要かと思えます。

いざという時のために日頃から訓練をし、近所同士のコミュニケーションを取りながら備えることが大切です。



## (4) まとめ

国際化、科学技術化、情報化がどんどん進展し、世の中が益々便利になってきました。一方、少子化、過疎化といった様々な社会的問題も進んでおり、混迷・混沌化、複雑化も現れ、「これだ！！」という決定打のない状況も増えてきました。いろいろな場所で、「生き残り作戦」とか「限界集落」など、人々の心に不安感を抱かせるような言葉が出ており、ハッとすることがよくあります。“和紙の里日置”でも、このような状況を、ひとごとではないと実感する方々が増えてきていると思います。

このような社会にあって、市政との協働による「日置地区まちづくり協議会」が、平成20年11月に発足しました。現在2年目に入ったところです。特に、環境、福祉・育成・健康、防災活動に力を入れています。

日置には、現在1,200余名の方が、自分育て、家庭づくり、集落づくりにがんばっています。このような中、多くの方が本協議会の諸事業に、培ってきた「力」、「心」、「技」、「知恵」を出し合い活動しています。その姿に出会うたびに、日置のあたたかさ、たくましさを見たようで、まちづくり協議会の大切な意義を感じます。

平成23年度は、旧日置小学校北校舎が、新しい日置地区公民館としてスタートします。ここを日置のコミュニティの拠点として、益々光る日置、人に優しく住みよい日置を目指し、本協議会の充実と発展に、共に、「力」、「心」、「技」、「知恵」を発揮し合い、じっくり歩んでいきたいと思えます。

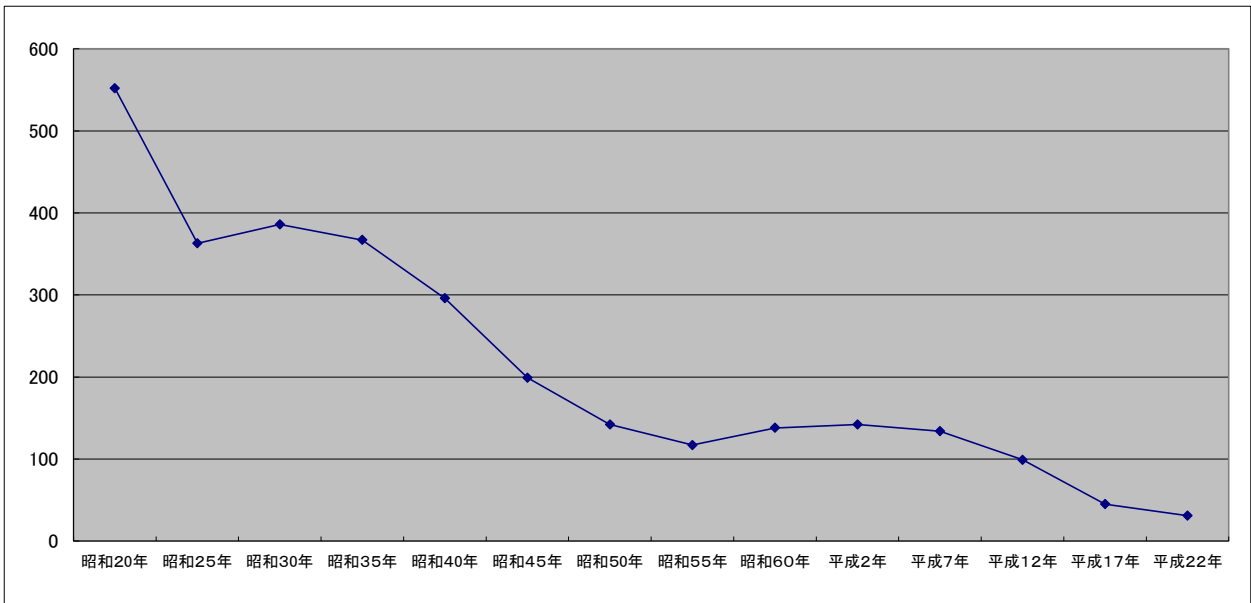
日置地区の皆さん、どうか、この“日置地区まちづくり計画”を手元に置き、ご活用ください。そして、本協議会へアイデア、アドバイス等がありましたら、お聞かせください。



## 日置地区児童数の変遷

参考資料 ①

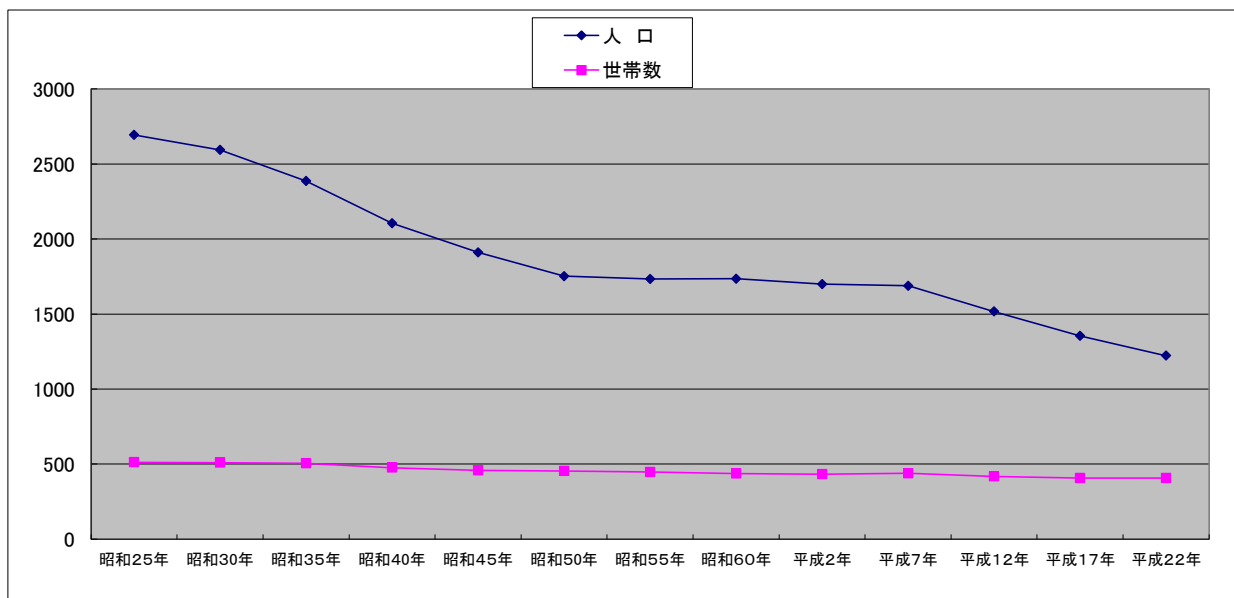
昭和20年	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
552	363	386	367	296	199	142	117	138	142	134	99	45	31



## 日置地区人口・世帯数の変遷

参考資料 ②

	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	2,694	2,594	2,386	2,104	1,910	1,752	1,733	1,735	1,699	1,688	1,517	1,354	1,222
世帯数	512	510	505	476	458	453	447	436	432	438	418	406	407



\* 平成22年分は国勢調査の数字でなく住民基本台帳によるものです。